『 オープンダイアローグの実践 』

講師：三ツ井直子氏　（訪問看護ステーションＫＡＺＯＣ（かぞっく） 看護師）

この度、２πｒでは下記の様にＫＡＺＯＣの看護師であり、オープンダイアローグに精通している、三ツ井直子氏をお迎えして、講演をお願いすることになりました。ＫＡＺＯＣは精神障がいがあっても地域で生活し続けることを支援する為、２０１３年に東京に作られ、他団体と連携しながら、精神障がい者が主人公のさまざまなプロジェクトを展開しています。昨年１１月、じんかれん主催「県民の集い」において精神科医森川すいめい氏の「オープンダイアローグとはどういうものか」を学び、今回はその続編ともいうべき講演会です。多くの方のご参加をお待ちしております。

日時：２０１９年１０月２６日（土）１３：３０～１６：００

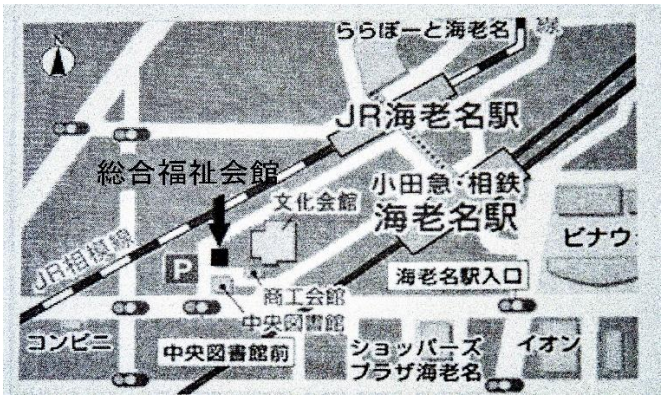
会場：海老名市総合福祉会館１Ｆ娯楽室　定員 130 名（先着順）無料

☆ ☆ ☆　プログラム　☆ ☆ ☆

１３：００	受付
１３：３０	開会
１３：３５	講演　『精神科訪問看護におけるオープンダイアローグの実践を通して見えてきたこと』
１５：３０	質疑応答
１６：００	閉会

主催：海老名精神保健福祉促進会　「２πｒ」

問合せ：雙田（そうだ）会長（080-2333-4987）、大貫（080-3171-9511）



＊会場はカーペット敷きのため、靴入れ袋をご持参お願い致します。

＊オープンダイローグのロールプレイ

「オープンダイアローグ」とは＝対話で精神病からの回復目指す

最近、フインランド発祥の「オープンダイアローグ」と呼ばれる精神療法が注目されている。文字通り「開かれた対話」による治療で、入院や薬剤を極力使用しない点が大きな特徴だ。統合失調症やうつ病、引きこもりなどの治療に大きな成果を挙げているオープンダイアローグについて、筑波大学（茨城県つくば市）の齋藤環教授に聞いた。

◇ 対話による症状緩和

オープンダイアローグは、１９８０年代にフインランドの西ラップランド地方にあるケロプダス病院で始まつた。患者や家族から連絡を受けた医療チームが２４時間以内に訪問し、ミーテイングを行いながら症状緩和を目指す療法だ。

ミーテイングの参加者は患者、家族、医師、看護師、セラピストらで、１回当たりの時間は１時間半程度、参加者全員が平等な立場で、症状が改善するまで毎日行われる。

「ミーテイングは全員が発言し、医療チームで行われる話し合いもすべて患者さんの前で行います。薬物治療や入院は極力避けますが、必要な場合には患者さんを含めたミーテイングで決定します」と斎藤教授。

オープンダイアローグを導入した西ラップランド地方では、統合失調症患者の入院治療療期間が平均１９日短縮され、通常治療では１００％の服薬が必要な患者の割合は、３５％にとどまった。２年後の調査で症状の再発がない、あるいは軽いものにとどまっていた患者は８２％（通常治療５０％）、再発率も２４％（同７１％）と大きな成果があり、世界各国で導入が進んでいる。